

講師、講演概要紹介



黒田 紀幸氏

経済産業省 製造産業局
金属課長

▶ 講演概要

銅やアルミニウムなどの金属素材は、私たちの身の回りには多くの製品に使用されており、製造業における位置づけも非常に重要なものとなっています。講演では、金属産業の現状や製造業におけるポジションを解説し、金属産業の抱える課題と将来像について紹介します。

▶ 略 歴

1995年通商産業省（現・経済産業省）入省。JETROウィーン事務所次長、内閣官房副長官補付企画官（経協インフラ戦略会議担当）、経済産業省貿易経済協力局貿易管理部安全保障貿易管理課長などを経て、2018年7月より現職。



川口 寛氏

古河電気工業株式会社
執行役員専務
電装エレクトロニクス
統括部門長

▶ 講演概要

人類最古の金属と言われる銅は、導電率・熱伝導率・加工性・耐食性・抗菌性に優れ、建材・給水給湯配管・冷凍空調機器配管等の構造材料として広く利用されてきました。最近では、自動車や電子機器の分野で、コネクタや半導体材料などの機能材料としての利用が増加し、情報化社会を支える金属と言えます。銅の基本的な特性や高機能化への歩みを紹介します。

▶ 略 歴

1982年に古河電気工業株式会社入社し、銅管の製造プロセスに関する技術開発に従事。金属カンパニー企画管理部長・銅管事業部門長を歴任し、2018年4月から電装エレクトロニクス統括部門長を務める。



吉田 一也氏

東海大学
副学長

▶ 講演概要

銅やアルミニウムをはじめとする非鉄金属は非常に重要な材料となっています。私たちの身の回りにはスマートフォン、電気自動車、飛行機、医療機器には非鉄金属の機能を十分に発揮した部品が中心にあり、高性能・高機能製品が出来上っています。本講演では、非鉄金属の塑性加工研究の事例について紹介します。

▶ 略 歴

1982年東海大学大学院博士課程修了、東海大学工学部助手、助教授を経て1995年教授。1994年から95年米国リーハイ大学で訪問研究員。専門は塑性加工で特に引抜き加工。日本鉄鋼協会理事、日本塑性加工学会理事を歴任。現在東海大学副学長（研究担当）、日本銅学会副会長。

見学会場概要（古河電気工業(株) 日光事業所）

日光事業所は、明治39年（1906年）に日光電気精銅所として発足。銅の電解精練と各種伸銅品の製造を行ってまいりましたが、電解精練は昭和63年に撤退。現在は、電気・電子部品用の条製品や、棒・線製品等を製造。研究所を併設し、当社伸銅品の研究開発拠点でもあります。事業所の使用電力は、自社の水力発電でカバー。

鑄造・圧延・焼鈍など、主に条製品の製造工程を見学します。見学後、若手技術者との交流会を行います。

